



都市デザイン研究室 2012 年を振り返る

Teachers told us their memories in 2012

2012 年も残すところあと約 3 週間となりました。2012 年、先生方にとって最も心に残ったことはなんだったのでしょうか。また、2013 年に向けての思いとは。5 人の先生方に語っていただきました。

text_koshimura

西村 幸夫 教授 時間は戦って作るもの

2012 年を振り返って心に残った場所

今年はなんと言ってもブータン。現代生活を送るにはとても困難なところですが、教育費も医療費もすべて無料、どんな山の中でも携帯が通じるという国。大半の国民が英語を自由にあやつり、誇りを持って暮らしていました。県庁がお寺を兼ねている、宗教と政治が一体化した国。そして山岳の風景がスイスに似てに雄大で、民家も絵のように美しい国。首都ティンブーは人口 10 万あまりのひなびた田舎町のような風情でしたが、すべての建物はブータン様式で建てるのが義務づけられており、階数も 4 階までに制限されています。国内には信号がひとつもなく、唯一ティンブー市内に警察官の手旗信号による交差点がありました。

GNH を標榜する国として有名ですが、GNH の思想の柱に

はサステイナブル・ディベロップメントと伝統文化の尊重がうたわれているといいます。まさにカルチャーショックでした。

2013 年に向けて一言

いかに自分の時間を作るかが課題となっています。やはり時間は戦って作るものだ実感している毎日です。2013 年はせめてもうすこし執筆活動に時間を費やしたいと、時間が空くときに備えて、モチベーションだけは高めています。

研究室の学生に一言

長い時間をかけて一つのことに打ち込めるということがいかに贅沢なことなのか、つまり今の生活がいかに豊かなことなのか、そのときはわからないものです。そうした状況を駆け抜けるのが若さの特権なのでしょう。うらやましい限りです。

だからこそ時間を大切に。



窪田 亜矢 准教授 他の人と違ってもいい

2012 年を振り返って心に残った場所

今年は、海外まで広がっている研究室のつながりが印象的でした。特に、留学していた方が母国で重要なお仕事をされていることを強く感じます。

Le Quynh Chi さんとは毎年二度程、ハノイ水環境調査をしています。いつも非常に優秀な学生さんらを連れてくるので、tangible と intangible の両方を把握できつつあります。タイの Yongtanit さんやベトナムの Loan さんとも、日本における国際会議等でご一緒できました。

写真はソウルのピマ道です。写っているのは、南さんと岩田君です。この直前には、今回、日本にいらしている大先輩、李さんに、みんなで北村にある韓屋をリノベしたレストランに連れて行っていただきました。

さて、ピマ道とは避馬路です。幹線道路である鐘路(チョンノ)では身分の高い貴族等に路をゆずって平伏しなければならなかった庶民が、貴族と会わずに済むようにつくった一本裏の路地です。とても狭くて、残余空間が通行空間としてつながっています。身分な

んで糞食らえ! というやんちゃが伝わってきます。建築物すなわち「うわもの」の活用がどんどん進んでいますが、こうした街路網や町割の継承というのは、ソウルに新しい意味を付与してくれそうです。十月の夜中三時に、卒業生と留学生と三人で避馬路をまちあるき。2012 年を振り返ったときの心に残った場所と出来事です。

プロジェクトもそれぞれやるべきことをやっていると捉えています。全部は書けませんが、プロジェクトの研究化(神楽坂や鞆での査読付き論文)や佐原での記憶を記録する試みは大きな成果だと思います。

2013 年に向けて一言

大槌の復興まちづくりは、年度末はもちろんですが、4~5 月あたりで一歩新たに踏み出すぞという気概が要ります。水と復興デザインには、はまり続けます。

研究室の学生に一言

他の人と違っていい、むしろ違った方がよいではありませんか。今、自分が血肉にしていることは何ですか。自覚して生きていてください。



Christian Dimmer 助教 Chance to collaborate

It is exciting for me to teach and research in Japan at this time. Centrally located in East Asia and connected through a dense network of alumni, one has the chance to collaborate on many important international research projects. As the world has entered the urban age and as global social as well as environmental problems are growing ever more pressing, so grows the need for mutual learning and exchange of ideas. How are other countries dealing with issues of sustainable urban regeneration and community empowerment? What are useful strategies to create inclusive and enabling urban settings that can cope with different global and local challenges?

2012 was a year of intensive international collaboration. In February we hosted a workshop in Tokyo that brought together young researchers from Japan, Chile, USA, Germany, Thailand, Hong Kong, and Taiwan. Central question was how cities across the world are managing the provision of publicly usable spaces through partnerships with private actors and how lessons could be applied to other planning cultures. I am looking forward to intensify this and other cross-disciplinary intercultural research projects in the coming year and I would be glad if students made active use of these unique opportunities.



黒瀬 武史 助教 風景の奥深さ

2012 年を振り返って心に残った出来事

8 月の大槌・吉里吉里のお祭りと 11 月の清水港・石造倉庫での「ミナトブンカサイ」が強く印象に残っています。吉里吉里は、何度訪問しても、やはり私は被災したあとのまちの姿しか知らなかったわけですが、お祭り当日、家の軒先(だった場所)に老若男女が立ち並び、店先に座り、行列が通りすぎるのを楽しみにしている様子を見たとき、写真でしか見たことがなかった、被災前の吉里吉里の雰囲気を感じることができた気がしました。

対照的に清水では、物流から文化・芸術へ、これまでと全く別の使い方を提案したわけですが、地域の方々に続々と参加いただき、プロジェクトのメンバーがイメージしてきた空間を、ひと時だけですが実現させ、市民の方に体験頂けました。

吉里吉里も清水もこれからが大切ですが、それから、私事としては、結婚が大きな出来事だったのですが、よく晴れた朝、自宅ベランダから見た景色は、普段と全く別のものに見えました。ハレとケ、個人と集団、改めて風景の奥深さを実感した一年でした。

2013 年に向けて一言

自分たちが研究室でやっていること、考えていることを、少しずつでも文字にして積み重ねていかなければと思っています。

研究室の学生に一言

調査で感じたこと、聞いたこと、本で読んだことを、しっかりと消化して自分のものとする時間を大切にしてください。



松田 達 助教 等身大の自分で

2012 年を振り返って心に残った場所

ベネチアにて、建築家磯崎新による中国鄭州の数百万人の新都市計画に関する展覧会「中原逐鹿展」を準備しました。展示が完成し、磯崎氏が到着する際には、空が急に曇り、雷鳴が轟き、まるで天から何かが降臨するかのような異様な状況。2012 年の夏のベネチアでした。

2012 年を振り返って心に残った出来事

石川県能美市、北陸先端科学技術大学院大学のエントランスホール内に、パズルギャラリーを設計し、竣工しました。世界第 3 のパズルコレクションが寄贈され、空間自体がパズルとなっています。完成の瞬間が、心に刻み込まれました。

2013 年に向けて一言

精進を重ね、いま自分ができる最善を尽くします。卑屈に、自分の能力を貶めるのでもない。自分が現段階で何が出来るのか。それを見極め、着実に実行することが大事だと思います。他人が自分を過大評価しても、過小評価しても、自分の力は変わりません。自分の等身大の能力で、いま、出来る限りのことを行う。それに尽きると思います。

研究室の学生に一言

皆さんにとって「都市」とはどのようなものですか?と問われたら、どう答えますか。根源的な問いかもしれません。でも皆さんはまぎれもなく、都市についての専門家、あるいは専門家の卵です。自負と危機感を時には持って「都市とは何か?」自分なりの考えをぜひ答えられるようにしてみてください。



	研究室全体 UD Lab.	大田 Ota	大槌 Otsuchi	神楽坂 Kagurazaka	公開空地 POPS	佐原 Sawara	清水 Shimizu	高山 Takayama	鞆 Tomo	水 Waterscape	ルンビニ Rumbini
1 Jan.			1/21-22 記憶再生プロジェクト 被災前のまちの写真や思い出を まとめる	4月 『神楽坂の断片「らしさ」 を紐解く 50 のデータ』発行				3/18 地域マネジメント計画発表会			12/27-1/7 ルンビニ現地調査
4 Apr.	4/13 公開活動報告会 学会各賞受賞! 都市計画学会年間優秀論文賞 (阿部正隆さん, 大熊瑞樹さん, 傅舒蘭さん) 都市計画学会奨励賞(江口久美さん) 不動産学会湯浅賞(矢吹剣一さん)		大槌 アルバム				4/27 三保半島など広い範囲を見学		5月 日本建築学会論文集へ 論文提出		
5 May.	6/23 西村先生還暦祝賀会	6/12 M1 で初まちあるき	5月下旬 御社地の実測調査や海上調査、 漁師さんへのヒアリング		5月 東京の公開空地マップの アップデート	5/9 新メンバー初の現地調査					
6 Jun.											
7 Jul.	7/13 BBQ 大会開催										
8 Aug.	7/30-8/4 研究室旅行 in 台湾	8/30 おおたオープンファクトリー 実行委員会始動	8/25 吉里吉里思い出サロン 8/25-26 吉里吉里祭り調査	8月 『神楽坂まちの遺伝子(仮)』 執筆作業	8/5-7 台北および香港での実態調査	8/18 盆ふえすた ヒアリングやアンケート による調査実施	7/2-3 蔵の実測と商店街の ヒアリング調査を実施	8/18 「日の出地区の探検と ワークショップ」開催	8/8-10 現地調査 空地調査のまとめに向けて	8/8 栃木県内の鬼怒川中流域へ 河川沿いに展開する震災や 舟運で栄えた河岸をめぐる	7/16-19 第2年次報告会参加 7/19-24 インド仏教遺跡視察
9 Sep.	9/12-14 日本建築学会大会 in 名古屋				9/12-14 名古屋調査 9/16-18 札幌調査		8/24-26 役員会に参加 高山市の認証制度立ち上げ MTG 若連中 BBQ	9月 長倉地域マネジメント計画完成 夏の万雑で計画書を正式に策定	9/30 全国まちづくり会議 in KOBE 冊子「鞆の浦と空地」も完成		7/19-24 インド仏教遺跡視察
10 Oct.	アーバンデザインセンター本、出版										
11 Nov.	11/22 Chester Liebs 先生特別講義 in 本郷			10/20 「神楽坂の登録有形文化財巡りと 文化のまちづくり」シンポジウム		10/12-14 「さわら昭和のくらしと記憶展」 調査成果を秋の大祭に合わせ 発表しました	11/25 ミナトブンカサイ開催!	9月 長倉地域マネジメント計画完成 夏の万雑で計画書を正式に策定			8/8 栃木県内の鬼怒川中流域へ 河川沿いに展開する震災や 舟運で栄えた河岸をめぐる
12 Dec.	12/3 アーバンデザインセンターフォーラム in 本郷		11/25 赤浜集落にて、避難行動を ヒアリング調査	11/6 「文化財活用人材養成講座」 で東大チームが発表	11/22-27 台北市内の調査に加え、国立 台湾大学で Chris 助教が講義			11/10-12 長倉班臨時総会にて「うちあ かりプロジェクト」立ち上げ決定 秋祭りに参加			11/14 鬼怒川下流(守谷)、関宿(利根川・ 江戸川分派点)の調査
	12/12 忘年会	12/1 おおたオープンファクトリー開催			12月 cSUR マガジン刊行予定						12月 1月の現地調査に向けて 鋭意準備中!

UNESCO ユース カンファレンス



UNESCO の世界遺産委員会第 36 回会合に合わせて各国のユース委員会が企画され、そのロシアのカザンでの会合に M1 の児玉が 7 月 1 日～9 日の日程で参加しました。

会合では各国の代表者による世界遺産の候補地の紹介が行われ、世界遺産の持続可能な保全のためにその価値を伝える教育活動の重要性が主な議題として取り上げられました。

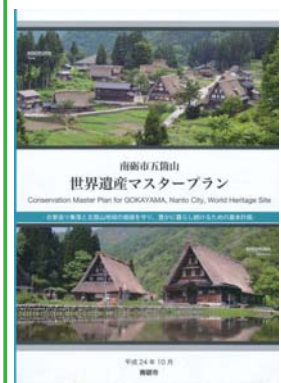
GCOE 国際 WS in バンコク

8 月 29 日から 9 月 10 日にかけて、バンコクで行われた GCOE の国際ワークショップに M1 柏原が参加しました。

バンコクの CBD に隣接する地区の魚市場移転後の再開発計画について提案するという内容でした。



五箇山 マスタープラン 完成



昨年度から調査に入っていた、五箇山合掌集落の世界遺産マスタープランが 11 月末に完成しました。

相倉・菅沼の合掌造り集落だけにかぎらず、五箇山地域全体でこのマスタープランをいかに活用して地域の持っている価値を守っていくか。策定後のこれからが正念場となります。

沖縄米軍基地 跡地利用計画 提案コンペ

窪田先生、黒瀬先生、M1 児玉・萩原・福士のチームが提案コンペに応募し、入選を果たしました。

提案に先立ち行った 8 月の現地調査では、基地そのもののスケールに圧倒されるとともに、問題の背後に広がる課題・その根深さを実感しました。



12 月・1 月の予定	
12 月 19 日	第 13 回研究会議
12 月 21 - 22 日	清水 PJ 現地調査
1 月 9 日	第 14 回研究会議
1 月 4 日～12 日	ルンビニ PJ 現地調査

編集後記 越村 高至

都市デザイン研究室のこの 1 年の活動のページを作成しながら、大学院に進学してから実に色々なことがあったなと感じました。この 1 年を振り返ってみると、少しは成長ができたのかなと思うこともあれば、まだまだ自分を変えられていなかったり、思わず目を覆いたくなるような苦い記憶もあります。来年はもっといい年にしなければと、忘年会直前にマガジン忘年会の作成に追われながら思っております。

Information